

明治三年三月御変革一件扣

後藤重己
山中浩司

当史料は、宇佐市橋津地区、橋津守英氏の所蔵する史料の中の一点である。

橋津氏は、江戸期を通じて、島原藩飛地「豊州御領」の橋津組大庄屋を勤めた家であり、江戸期の文書史料を所蔵している。

慶応四年（明治元）の戊辰戦争（一月）、五ヶ條誓文（三月）、翌二年には公議所の開設、官制の改革など急速な新政への移行の中で、地方政治に対する諸対策が、いかに進められて行ったかを知る上に、極めて興味ある史料である。

なかでも、旧村支配者の新名主への転身の様子などを明確に伝えている点など重要であろう。

新時代への移行期の村落政治の機構、機能に対する国側の姿勢と村側の対応の様子を知る史料として、ここに紹介する次第である。

三月七日 晴天

一、今日、五組村々庄屋組頭山留一同不残御役所江御呼出ニ相成被仰渡_レ御沙汰之趣左之通、此度天下一般大御変革ニ付ては

御上を始、藩士末々ニ至迄従前之知行御扶助高を取縮奢侈之根を絶ち往古淳朴之風ニ復_レ折柄、当御支配地大庄屋を始村役人共之義も泰平之習弊より漸々_ニ農家素朴之體を失ひ就ては小民之出来ニも差響_レ様相成_レ付、左之通御改正被仰付_レ間、何れも身分限_ニ応じ質素節檢_力を相守極免之外、村中之助成一切不請様可致_レ

一、是迄之大庄屋役廢止、更ニ組々江惣名主老人宛申付_レ事
一、村々庄屋組頭山留役之義も総て廢止取寄村々兼帯名主申付、且乙名役山留役之義は格別、小郷は一村落人ツ之積を以、人攘追々可申付_レ事

一、右之内、是迄勤方等閑或分限を不弁、奢ニ長じ_レものも相聞_レ得共、従前々之事は被_レ為_レ奔

以、当役被仰付_レ条何れも向後一際勉勵、別て惣名主義は諸用手代江不任、専之職掌心掛_レ可申_レ付、向

後御改正ニ不基、是迄之悪弊不改ものハ、速ニ役義被召放_レ外事

一、大小庄屋浦庄屋見習勤并後見勤廢止之事

一、村掛り諸出方五組割合并組限割合之儀は当分之処、農曹立會遂吟味_レ可申_レ外条、一村割合之義は村々ニて小前之内、算算出来_レもの兩三人宛輪番を立、其村名主乙名頭百姓立會勘定_レ為_レ致_レ可申_レ事

一、惣名主并村々名主乙名給之義は、是迄之大庄屋庄屋組頭

給_レ其儘被_レ下_レ置_レ外事

附_レり浦名主給之義も可_レ為_レ同然事

右之外小目は農曹_方可_レ申_レ達_レ外条、其旨可_レ相心得_レ外

申渡覚

一、年々村々江御貨渡相成 酒造米千石并高田町酒造人四人

江御貨渡米五百石共相聞_レ外義有_レ之、以後御貨付_レ無_レ之

事

一、百姓町人楽舞致_レし外義、以後令_レ停止_レ外、右ニ付高田

若宮八幡宮神事能并高田芝崎天神祇園祭禮囃子共被_レ廢_レ外

事

但シ高田下宮能舞臺棧敷は速ニ取崩し_レ可申_レ外

一、村々神社祭禮向等之義も、無益之費用不相掛_レ様前件ニ基、程々改革_レ可致_レ外事

一、御廻米船いつとなく船頭家株之様、相成居_レ外處、不埒之義も相聞_レ外ニ付、以後兩浦船頭之内人撰を以、時々相雇ひ品ニ寄、他所船ニても吟味之上積渡_レ可申_レ事

一、郷中御買物代

一、諸出郷村賄代

一、自他藩通行人馬賃錢

右口々之義は程々割増_レ可_レ被_レ仰_レ付_レ外条、其旨可_レ相心得_レ事

一、惣名主檢見中改、以後廢止之事

一、檢見諸入用割合之義は組々一函之趣、相聞_レ外間、以來相願_レ外反別ニ割合_レ可申_レ外事

一、酒直段、毎年御定も有_レ之_レ外處、自今其義無_レ之_レ外間、

諸物之価_レニ應_レじ、正路之商_レ可_レ致_レ外、万一高利を賣_レ外もの於_レ有_レ之は、酒造株札取上_レケ_レ可_レ仰_レ付_レ事

一、店方手代番頭他、支配_レ方雇入_レ外義、禁止、成丈ケ家内限_レり商賣致_レし極々手廻兼_レ外ハ、自国之もの相雇_レ可_レ申_レ外

事

一、他藩縁組、向後禁止之事

一、五人組村^ニ寄、遠方隔絶自然示合、不行届之義も相聞^ハ

之条、自今隣家組合^ニ相改、家主并組合名面相認、家別

表札可差出^ハ事

右之外猶追々^被

仰出^ハ義も可有^ハ之^ハ事

三月

司農局

草地村名主

安田甚一郎

松原村名主

吉田口一郎

高森村名主

都留 龜作

右兼て勤方等閑村内示合不行届、其外相聞^ハ義も有^ハ之^ハ事^ニ

付、御一新之折柄役義被^ニ召放^ハ之^ハ事^ニ得^ハとも、寛太之御^(天力)

所置を以、此度迄は役儀被^ニ仰付^ハ問、御慈非之程、雖有心得、^(悲)

向後急度改心、村長之職掌勉勵可致事

横嶺村先庄屋

渡邊源兵衛

桜木村先庄屋

永松金右衛門

小御盃一宛

小向野村先庄屋
南 市左衛門

山蔵村先庄屋

佐藤弥三郎

飯田村先庄屋

柳瀬孫兵衛

右年来御役義出精相動^ハ付、頭書之通被^ニ下置^ハ事

此度庄屋役御免名主役不被^ニ

仰付^向は速^ニ諸帳面取揃目録を以、日数三日之内、其

組惣名主江可差出^ハ事

三月

司農局

拙者共居小屋之義、何れも承知之通銘々居間而已^ニて、別

間逆無之處差付罷出^ハもの多、甚及迷惑^ハ義間々有^ハ之^ハ事^ニ

間^(御)竟萬事不行届之もの而已相詰^ハゆへ、右様惶卒仕義^ニ押

移^ハ之^ハ事^ニ可^レ有^ハ之^ハ事^ニ得^ハ共、乍不背支配御預^ケニも相成居^ハ得

は、程々禮義無^レ之^ハ事^ニ上江對^シ不敬之訳^ニは立至^リ申

間敷哉、此段役方は勿論本人迄無^レ御申聞有^レ之^ハ事^ニ

右^ニ付、差急^ハ用筋有^レ之^ハ事^ニ節は、小屋付中間不居合取

次之者無^レ之^ハ事^ニハ、何村某^ニて^ハ何某殿江申達^ハ段、高

聲ニ案内を乞相答^レ上、被罷出^レ様致度^レ、且又毎度及沙汰^レ外通り成丈居小屋ニて之御用談ハ相断申度勿論事品ニ寄一切不承義ニは無之^レ得共、自分勝手ニて之刻限ニ罷出、御用弁之上引取儘積不少自俣御用邊取扱^レ段は心得違ニは有之間敷哉、此段も無洩被申談^レ様致度事

農 曹

乙名・山留役御趣意ニ基、一村老人宛、大郷は両三人迄之積ヲ以、極々人撰急速内伺被差出^レ様、尤兩役兼勤之事

但農正始役之近日廻村、頭百姓共江御趣意申渡^レ間、成

丈差急キ取調有之度事

一 誓詞百姓之義、村ニ寄り家株ニ申付^レ趣ニて如何之儀も相聞^レ之間、是又一且廢止之上、正路之もの人撰ニて受て可^レ申付^レ事

但成丈人員相減し^レ義勿論たるべし

一 夫米・口米・雜代米免定表ニ不相見^レ付、小前疑惑之村方も有之哉ニ相聞^レ之間、已後定表へ書頭^レ積、御沙汰有之^レ之間、為含申達^レ事

一 大小庄屋見習勤、今般被廢^レ上は、御格式無^レ之事

但勤切金切丈ヶは其身へ相残^レり事

一、御玄関江張紙、左之通

覚

一、高田組惣名主

元高田組大庄屋 高田 徳蔵

一、田染組惣名主

元田染組大庄屋 田染 順平

一、橋津組惣名主

元橋津組大庄屋 橋津 喜覺

一、山蔵組惣名主

元山蔵組大庄屋 山蔵 頭

一、長洲組惣名主

元長洲組大庄屋 長洲新三郎

高田組

一、高田村名主

同村横山九右衛門 詰蔵

芝崎村

元芝崎村庄屋 植木良左衛門

一、算所村名主

犬田村

元犬田村庄屋 清原永八郎

一、下来繩村名主

元下来繩村庄屋 清原永八郎

一、上来繩村名主

入津原村

元志手村庄屋兼帶 高田浦庄屋 山田留太郎

一、志手村名主

中伏村

下来繩
一、川原村名主 元川原村庄屋 大波多新十郎
野部村庄 雷村

一、田福村名主 元田福村庄屋 波多九郎右衛門
拂田村

知恩寺村
一、高宇田村庄屋 元鴨尾村庄屋 田邊 泰藏
鴨尾村庄 荒尾村

一、築地村名主 元大力村庄屋 鷺海 惣藏
大力村

一、松行村庄屋 元松行村庄屋 桑原五八郎
長岩屋村

一、黒土村庄屋 元黒土村庄屋 本城 又七
大平村名主

一、草地村庄屋 元草地村庄屋 安田甚一郎

一、上来繩村庄名 元同村庄屋 大島弥八郎伴 大島本二郎
一、雷村庄名 元同村庄屋 近藤彦十郎

一、知恩寺村庄名 元同村庄屋 在三郎

一、荒尾村庄名 元同村庄屋 北崎 新藏

一、築地村庄名 元同村庄屋 桑原 荒太

一、大平村庄名 元同村庄屋 豐曉九兵衛

一、拂田村庄名 元同村庄屋 河野藤一郎

一、高田浦村庄名 芝崎村 千嶋 谷藏

田染組

一、森村庄名主 元同村庄屋 橋本 甚六

一、佐野村庄名主 元佐の村庄屋 安東貞五郎

一、小田原村庄名主 元同村庄屋 橋本甚左衛門

一、横嶺村庄名主 元小崎村庄屋 安東只右衛門

中村 間戸村 元中村庄屋

一、真木村庄名主 陽平村 渡邊十左衛門

蘭木村

熊野村

田ノ口村

一、觀音堂村名主

上野村

沓掛村

元沓掛村庄屋

田原善左衛門

一、加禮川村乙名

元加礼川村庄屋

民弥

橋津組

一、橋津村名主

元同村庄屋

松本二三治

一、相原村名主

元相原村庄屋

吉田純一郎

一、水崎村

元水崎村庄屋

水之江久兵衛

一、池部村名主

元蔭村庄屋

柏木 正平

一、青森村

元刘宇田村庄屋

友岡新七郎

一、新城村名主

元新城村庄屋

大畑栄兵衛

一、立石村名主

元山村庄屋

長野矢一右衛門

一、加禮川村名主

元一畑村庄屋

河野次郎右衛門

一、山戒村名主

元横嶺村庄屋

源兵衛悻

渡邊 太郎

一、西屋敷村

元西屋敷村庄屋

豊田治左衛門

一、横嶺村乙名

元熊野村庄屋

生地弥太郎

一、出光村

元金丸村庄屋

永松七郎右衛門

一、上野村乙名

元上ノ村庄屋

渡邊左馬太

一、岩崎村名主

元同村庄屋

都留 六郎

一、池部村乙名

財前 村太

一、和木村名主

元同村庄屋

久保 廉

元梅木村庄屋

金石衛門悻

十郎

一、日足村名主

元同村庄屋

佐藤 武雄

一、青森村乙名

元同村庄屋

友成清左衛門

一、西木村乙名

元同村庄屋 東 静男

山藏組

熊山藏村

山藏村

一、山藏村名主

賀来小太郎

房ヶ畑村

一、下市村乙名

元同村庄屋

儀左衛門

佐田村

元佐田村庄屋

一、中山村乙名

元同村庄屋

佐藤真左衛門

一、且尾村名主

賀来庄左衛門

久井田村

一、蟻木村名主

元同村庄屋

蟻川八兵衛

飯田村

元木裳村庄屋

一、新原村名主

木下 雄吉

一、西大堀村名主

元西大堀村庄屋

豊田市郎兵衛

木裳村

一、森崎村名主

元同村庄屋

松先傳兵衛

一、南毛村名主

南毛村

一、金屋村名主

金屋村

南 恒三郎

中山村

元上市村庄屋

一、長洲村名主

元同村庄屋

岡田長左衛門

一、折敷田村名主

土井 百藏

一、高森村名主

元同村庄屋

都留 富作

古市村

元龍王村庄屋

一、宇佐村名主

元同村庄屋

御幡 守雄

一、龍王村名主

二藏

一、長州浦名主

元同浦庄屋

岡田猪八郎

一、辻(松)村名主
恒泰村
田之口村

元恒泰村庄屋
中村本太郎

一、熊村乙名

元熊村庄屋

要三郎

一、矢崎村乙名

元同村庄屋

儀左衛門

一、下市村乙名

元同村庄屋

久恒 谷七

長洲組

一、佐々禮村名主乙名 後藤権左衛門

一、金屋村乙名 南 秀威

元小向野村庄屋
市左衛門悻

一、小向野村乙名 左十郎

右之通被二仰付一此事

三月

九日 晴天

一、今日村々名主共呼出し、乙名人撰申談許

十一日 晴天

一、今日左之通、書附差出外

横折 覚

橋津村

元組頭三人 西 富右衛門

同山留式人 元組頭 高橋 長平

日足村

新キ 佐藤九右衛門

元組頭式人 同山留式人 岩崎村

元組頭 都留 茂一

富作

和木村

新キ 慶藏

元組頭三人 同山留老人 元組頭 謙一郎

出光村

新キ 高築吉左衛門

元組頭式人 同山留老人 金丸村

元組頭 久三郎

元組頭式人 同山留式人 西屋敷村

同 圓平

元組頭式人 同山留式人

江熊村

青森村

元組頭式人

同

良平

同山留式人

両戒村

元組頭式人

乙名

西木村

元組頭式人

同

久右衛門

元組頭式人

乙名

同山留老人

山村

組寄

元組頭式人

新井

長野 定吉

同山留老人

辻村

元組頭三拾四人
此節 乙名拾九人
元山留拾五人

元組頭老人

同

但刈宇田村兼帯

次郎

元組頭老人

刈宇田村

一、今日左之通、切紙御渡^ニ付、名主中へ為^一写取^外、諸出郷

立石村

昼泊村へ御用向聞合、名主罷出^外義勿論^ニ得共、若病氣差合等^ニて、乙名罷出^外節、本役代役之差別なく

元組頭式人

元組頭

安藤弥左衛門

白洲へ罷出^ニ不及^外事

同山留老人

東大堀村

来ル十六日 廻村

元組頭老人

新井

源平

昼

泊

水崎村

川原村

草地村

元組頭式人

元組頭

権左衛門

鴨尾村

松崎村

菟村

沓掛村

中 村 小田原村

佐野村 高田村

金丸村 岩崎村

日足村 山蔵村

上市村 木裳村

宇佐村 長洲村

森崎村

人数上下七人

一、今日左之通、頭書差出外

以頭書奉伺外覚

一、村々罷施之もの所持之荒地、是迄五人組ニて弁納之向有_レ之外_レ、今般依御趣意_{（案）}家組合ニ相改_レ付ては、前断如何取斗可申哉奉伺外

書面罷施外跡之田畑は、五人組ニて作付_レ外、村中惣作

いたし_レ外答ニ付、致弁納_レ無_レ外

一、荒地村弁も有_レ之、甚難_レ決_レ之趣申出_レ外間、何卒御取調、当荒ニ被成_レ下置_レ外様奉_レ願_レ外、尤不_レ手入等ニて荒地ニ相成_レ外向は、向後御規則御立被_レ下置_レ外様奉_レ存_レ外

村々荒地改引方之義は、容易ニ調子方行届_レ外、無_レ外_レ条、起返し御主法_レ追々相立可申、尤不_レ手入ニて作地_ラ荒し_レ外もの無_レ之様、取締之規則ハ村々名主与_レ示談之上、見込_ラ付申出可_レ有_レ之

一、五人組表札認メ方奉伺外

表札 宿主 某

認振 組合 〡〡〡

一、宗門帳人数・家数・牛馬数等、其外年齢等是迄弊習ニて

取調_レ外間、當時多分_レ之増減有_レ外_レ此節

御一新ニ付ては、現在正実_レ之_レ外、取調_レ為_レ書上申度奉伺外

書面の通ニ無_レ之_レ相成間敷

一、是迄兼帯之義、諸出割一同ニ割合、或村限_リ割合_レ外義

有_レ之、區々趣ニ付、此度村々合弁ニ付ては、出来割合如何相心得可申哉奉伺外

一村限り割合可申事

一、此度被仰出内、極之外与申は何々之極ニ御座り哉、
心得方奉伺外

従前御定之給米、其外免許高等現在御規則之外私致間敷との御趣意ニ外、尤是等之義ハ追て疾与取調受て、組々村々一定之規則相立可申外

一、他支配方手代・番頭雇入之向、^(最)最早当年之分給銀等相

渡し有之外間、何卒當年之处御免被下置外様申出外間
奉伺外

此節方當年之給金、委皆相渡居外謂無之、然共家内限商賣出来兼外店方、自国之ものと雇替、就中給金勘定内場無余儀下も可有之ニ付、当七月限急度相改可申事

一、他支配方作奉公人并蠟油絞・杜氏等多分之義ニ付、如何相心得可申哉奉伺外

一、作奉公之義は、従前之通相心得可然、其外蠟絞・杜氏等ハ成丈自国之もの雇入可申義勿論ニ外得共、一切御差留相成りては難渋之場も可有之ニ付、無據分は他方雇入外も不苦外事

一、惣名主之儀、惣て先大庄屋之節通、相心得可申哉奉伺外
附、近国往来是追大庄屋出し来り外処、右等之義如何相心得可申哉奉伺外

書面之通相心得、近国往来等、是追之通り被差出可然、尤御一新之折柄事品寄相違之廉は及沙汰可申外

一、此度庄屋御役御免、名主役不被仰付向、御格式等如何相心得可申哉奉伺外

御座意被仰出外節、申渡し外通、^(マ)一汙格式其儘之御役御免被仰付外事、新ニ役名被設御義ニ付追て、等級表ヲ以、御沙汰之節も可有之外得共、夫追は当役之向迎も格式、従前之通、

相心得罷在可申外

一、是迄組頭之儀、何名之掛リ与申義有之付処、此度は惣

引受ニ相成り義ニ可有御座哉奉伺外

御用弁之方ニ決定、其段申出可有之付

一、惣名主并村役人御免高、是迄之通相心得可申哉奉伺外

但取米之処區々ニ有之付間、自今御支配地平等ニ相

成り様御所置奉願外

不正之義相聞間取調之上及沙汰可申外

一、先大庄屋手代給・詰夫給之義ハ是迄之通相心得可申哉奉伺外

十三日 曇り

一、今日左之通御状ニ付式触ニて申遣外、御役所へ召連出付処

梅村様御出席ニて山留有之村々は山留兼帯乙名代役其外

は乙名代役斗リ被仰付外

覚 橋津村

西 富右衛門

高橋 長平

日足村

佐藤九右衛門

和木村

慶蔵

謙一郎

岩崎村

都留 茂一

富作

出光村

一村 三人

一、是迄組頭之義も有之付向、此節改て老人ニ相成りニ付

ては、矢張是迄之三人分給米宅人ニて受取り訳ニ可有

御座哉奉伺外

附 合弁村々名主之義、同様相心得可申哉奉伺外

高築吉左衛門

金丸村

久三郎

西屋敷村

圓平

江熊村

良平

向戒村

久右衛門

山村

長野 定吉

辻村

次郎

立石村

安藤弥左衛門

東大堀村

源平

水崎村

権左衛門

右之者共申達義有之^レ間、明十四日、名主付添召運可有之^レ以上

三月十三日

橋津喜覺殿 月番 小川額太

急用

十四日 曇り

一、今日我等出勤、今日御呼出之者共召運出外処、乙名代役并山

留^レ有之村は兼帯役被^レ仰付^レ

廿一日 晴天昼後与^レ雨天

一、今日も御一新之廉々頭百姓共へ御沙汰ニ相成^レ付、當

組へ高田組与^レり御引移、刈宇田村御寄^レり村ニ付罷出外処、

四ツ時頃御引移^レリニ相成^レ付、御案内等は合附之節ニ相違

無^レ之^レ付、出席左之通

王^御 名主 頭百姓共

逆^御 同 乙名 是は己前之頭百姓也

日足村 橋津村 和木村

一、御屋後、直ニ御出立ニ付、我等庄屋方門前ニて御暇与申上、直ニ引取り、同村乙名代熊村迄御案内、名主は南無江迄御案内為致り、支度はんてん股引

一、御農丞様 昨廿一日夜、岩崎村ニて此度之御ケ条御農正

御書取ニて御下ケニ相成り間、銘名共写し置り処、追刻

御農正様方も右條目は貴様方心得迄ニ付、名主共々尋出

り義は夫々返答り様決して被仰聞り、此度之御演舌左之条目、尤惣名主与認メ有之り丈御除ケニ相成り迄ニ有之り

大目 口達

一、此度天下一般大御変革ニ付ては

御上ヲ始藩士末々ニ至迄、従前之知行御扶助高ヲ取縮質素

節儉ヲ專らト致、往古淳朴之風儀ニ復り折柄、御支配地

大庄屋ヲ始、村役人共泰平之習弊を漸々与農家素朴之體ヲ

失ひ、自然小民之出来ニも差響り様成行、依て此度御改政

被仰出り間、何レモ身分分限應し質素節儉ヲ相守極之外村

刘宇田村 西木村 辻村 立石村 水崎村 青森村

東大堀村

右村々名主乙名并代役共御呼出ニて、夫々御演舌有之、尚又御

農丞御農曹方も御演舌有之

金丸村御屋、直ニ左之村々御呼出し

金光村 出光村 西屋敷村 江熊村

右御呼出し後、直ニ岩崎村へ御越ニ相成

廿一日 晴天

一、岩崎村へ左之村々御呼出し

岩崎村 山村 両戒村

一、日足村御屋、直ニ左之村々御呼出し

中之成助一切不受様可致、右ニ付、惣名主以下役々向後一際其職掌勉勵可致、然ルニ御改政ニ不基、悪弊不改ものは速ニ役義召放事

一、村掛リ諸出方、五組割合并組限り割合之義は當分之処、農舊立會可為遂吟味ハ桑、一村割合之義は村々ニテ小前之内算筆出来り者而三人輪番ヲ立、其村乙名・頭百姓立會勘定為致可申事

一、諸事役場与り及沙汰ハ義、小前共江も可申聞ケ条は時ヲ不移速ニ端々池無洩可申聞、下ヨリ訴出ハ義も同様速ニ其筋々ヲ以可相達、若又不筋之義等訴出ハ、得与利解能々納得可為致、兎角上下情実無隔様可心掛事

一、此度御改革之御趣意は惣名主以下役々其職掌推盡シ、諸事潔白ニいたし、小民之出米ヲ成丈ケ省、勤忠之条理押立ナハ、民力ヲ張、終ニは御支配之民ヲシテ安穩ニ村落之場ニ至へく、其上十分御奉公可致大意ニ、職掌は役義相勤ト者ニ不限、人タルもの皆夫々之職掌有り、小前之職与スル

ハ則耕作一途ニ精力上ハ素リ普ク世人之用ヲ助ル是百姓之職タル事

一、御法度之義は是迄之通、堅ク可相守候

一、惣名主以下役々之義は小前共之上ニ立會之手本与可成ものニ付得は、第一其身之行伏取脩、而ル後教諭可致心得ヨ、其身ヲ不脩人ヲ責ルハ逆ニシテ人不伏、身ヲ脩ルノ本遠ニあらず朝夕事ノ上有リ、上ニ御奉公申上ルニハ、専忠節ヲ思、私念ヲ去リ御為筋々ト心掛ケ、家ニ在テハ能々親兄ニ孝節ヲ尽し、君父之鴻恩報スル所ニ基、人ニ交ルニは信実真ヲ以シ此三ツノものは人タルもの片時も不可忘條目、御上ニ仕へ家ヲ始、人ニ交ル其他萬事此三ツノモノヨリ推廣メ行時は自然人モ伏シ、人伏スレハ其中ニ人和有り、人和ヲ得レハ事不成はなし、殊更耕作ヲ勸ルニは其身鋤鋤ヲ採り寒暑トナク衆人ニ先立リ風義ニ至リ付得は、小前共も自然与出精可致、右之場ヲ押尽時は役威も押立役威ナケレハ多クノ小民卒廻シ事なりかたく、乍去役義ヲ鼻ニ掛ケ自ら尊大ニシテ人ニ誇ルは役威ニあらず、是民事ニおゐて大

害ヲ生スル基ト心得ヨ、真ノ役處ト言は前ニ申ス通、私トナリ其身ヲ潔白ニ諸事行時は邪ナル者モ志ヲ不得シテ終ニは改心いたし、直ナル者も弥貴シ表ニおゐるて役威其中ニ押し立もの也、是則真ノ役威ニ外条、日々事ノ上ニ付て能々顧ヨ

一、人ニ長幼之分ケヲ心得、年若キものは長たるものへ苦方(勞カ)ヲ助ケ手厚之風俗ニいたるよふ心掛ケヨ

一、年若キものハ動もスレハ一時之心得違ふ本業ヲ忘れ、浮氣ニなり或はスイホウニ流レ、其末は手遊体之事ニ耽り、終ニは本心ニなき盜等之悪念も時々漸々与一家分散愛之親子ヲ路頭ニ立セ、是ヲも不孝恥たる事ヲ志らさるものなり、実ニ可疾亦可哀は皆是教示之不屈所、其職掌ニ於テ恥ト心得ヨ、私ヲも不行届ニテ上江對し恐入外次第ニ外、其他不入物もの村内ニ在テハ其責、皆我ニ有ト心得、教諭方一廉勉勵セヨ

一、此度新ニ兼帯之村ヲ從來受持之村も無隔、別て新ニ兼帯

之村は小前共之折合如何存外間、心ヲ用示方不可怠、小前共も無隔從前之庄屋同様ニ心得ヨ

一、小前共江御改革之御趣意ハ業々、惣名主以下役々之差配ニ不背様、念頭ニ端々迄申聞ヨ、此申聞方ニ依リ民心ノ動靜ニ至所、甚々肝悪肝要ニ外、口先斗リ之示方ニテハ貫徹いたし兼外間、前断示所之行ト言トノニツヲ以、手厚度々申聞セヨ

一、庄屋役發止、更ニ乙名役申付キ義、當御支配地小村多ク不便利ニも有之、且小村ト言共一村丈之入費相掛リ皆小前之出米ニ係リ、此度之御趣意成丈ケ小民ノ出穀ヲ省候社御趣意之一ツニも有之、其外思召も有之、旁以無余儀場与リ申付外事故、其邊差含無心得違氣受能精勤可致外

一、惣名主并村々名主・乙名給之儀は是迄之大庄屋・庄屋・組頭給其儘被下置外事

附、浦名主給之義も可爲同然事

一、村々共、孝心もの或ハ耕作方格別出情之者有之(精)ニおゐる

ハ速ニ可申出事

右之趣、厚相心得、何れも職掌相立_レ様可_レ心掛、尚追々被_レ仰出_レ義も可有之事

四月六日 同勤中申談左_レ通

一、初_レケ条は再伺之事

一、二_レケ条目、ニテ作地を荒し_レもの無之様取締之事
不_レ手入

田方不_レ手入ニテ検見相願_レ共、不_レ出組合并納之事畑方同
様は是又組合并納之事

右ニ付組合_レせり立、若当人不用節は其筋へ申出御差圖受_レ事
一、宗門目録相違相成_レ義、為念今一_レ応申上置_レ事

一、乙名何名懸_レリ之義は名限致_レし_レ方、御并用可_レ相成存_レ事
右高田長洲之事

一、御林手廣之村方は、山留無_レ之_レは却て御林荒_レ次第ニ
御座_レ事

一、四月十六日同州一同御呼出ニテ御農曹、矢嶋銀右衛門殿

左之通拜書御渡しニテ成丈名主共、与諸事申談取_レ斗_レ様御沙
汰_ニ外、尚又参事様御部屋へ罷出_レ様御沙汰_ニ付、罷出_レ
処、農正様_ニも御出席ニテ、前文之通被_レ仰聞_レ事

五組へ名主扨人ツ、月番ヲ立、日々其組惣名主方_江
相詰、諸事熟談遲滞無_レ之様取_レ斗_レ可_レ申事

但月番之義は押廻し相勤可_レ申_レ事

一、同月十七日名主共召運御役所へ罷出_レ処、右同様御沙汰
二相成_レ外、尤豊後筋は昨日御沙汰、然_ル処五組一同申談御
役所へ御断申上_レ様子_ニ有_レ之_レ、名主中へ御渡しも前同文

一、今日左之通御沙汰_ニ付、夫々_江申付_レ事

一、乙名代役本役は無_レ差別農曹_ヲ申渡_レし_レ事
一、結構被_レ仰付_レ節御禮廻り廃止之事

一、十九日左之通高田_方申越_レ事

惣名主方へ日々相詰_レ外名主之義、再應御断申出_レ斗_レ付、
勤弁、追_レて御沙汰之積、先_ツ夫_レ迄ハ従前之通ニテ御沙

汰已前^与相心得^外様被^レ仰聞^外間、左様御承知^可被^レ下^外
以上

四月十九日 高田徳蔵

橋津喜學様

山蔵 頭様

一、六月四日左之通高田方申越^外間、翌日山蔵^江纏

前紙写之通當組名主方頭書差出^外処、御付紙^ニて御

下^ケニ相成^外組々^ニも同様相心得^外様御沙汰有^之外

間、写し御廻し申上^り、組々名主共^江御申聞被^成外

義与奉存^外 以上

六月四日 高田徳蔵

橋津喜學様

山蔵 頭様

頭書

一、田地證文之事

但是迄村方取扱向之義は年季證文^ニ相認、譬拾^ケ年季
相認^外得は、年季明後は何十年相立^外ても質入砌之元

錢相渡し受返し来申^外間、是迄之分は前々之通り受方

仕度併是迄之通り^ニては際限も無之義^ニも外ハ、當

年^与リ拾五ケ年之内受返し^可申、若其儀不行届^ニて流

地^ニ相成^外段之極メ^ニ仕度奉存^外、是迄何れ之村も前

断之通年季證文^ニいたし置^最最早季明後数拾年相立^外證

文而已^ニ御座^外、右等之證文は受返難^出来時は當時困

窮之者は田地受返し等も出来不^申、弥困窮^ニ蹈^リ取與

之期も無^御座相成^外間、是非^レ前断之通り仕度奉存

外

御付紙

書面質地請返之義御法^ニ外^ル分^カ可^レ為^流地事

但、何十ケ年相立^外ても請返し^外与^申、從來仕辭如

何^ニ外^レ得共證文之振^リニ寄、難取極場も可有^之ニ付、

文政三辰年以来之分斗り當年方向三ケ年之間訴出^外

分は得与情実取糺其時々何出^可申事

一、此節の證文認方之儀は、年季明後尚又拾^ケ年之内^ニ受返

ハ、無違^交銀主差返^外棟仕度奉存^外、左も無^御座^外ては

不意^ニ流地^ニ罷成、當人難義たるへし^ニ付、前断拾^ケ年

猶預仕置申度外

御付紙

書面之通

一、名主共宅ニ是込村方は夏秋家別一日宛加勢受来り外、右は當御支配地斗リニ限り事ニも無御座、外御支配も同様之義ニ御座外由、如何相心得可申哉、御差圖奉願上外

御付紙

追て取調不及沙汰外

一、御廻村御休泊御賄、組中加勢銀之義、自今如何取斗可然

哉奉伺外

御付紙

但、加勢銀無之様仕法ニ付不申間難成り得共、夫込は賄方通ひ子ニ至迄極々減書いたし其組限割合可致事

一、御廻村御休泊之節、自村年番并兼村年番立會、内所向為取斗申度、左外得は當暮、村出米割之節、入用辻承知仕居り間、都合可被宜様奉存外、是又御休泊用意人足遣ひ目付

兼村共夫遣ひ仕度与奉存外

御付紙

書面之通

一、銘々共何頭差出外、其後御付札ニて御下ケニ相成り、則左之通

一、是込御用之節、人足召連れ外処、御変革ニ付ては成丈不召連様可仕、乍併風雨之節、且又無據用遣ひ荷物等有之節は召連不申て難相成時節も御座外、右様之節止宿外得は人足賄組江加入外組も有之、又は私共自分并外組も有之、以来如何相心得可申哉

御付札

書面人足遣ひ無拠節は兼て詰夫之者召連、賄之義ハ帳面へ相記置、其組割合可致事

一、是込町宿ニて五組用組用筆紙墨時々入用吉木屋ニて相調置、五組加入いたしり分、此節右通札拵、相記掛御目同様仕度奉存外

同

書面帳紙代与して壱石ツ

上方被下置_レ間、右之内ニテ用弁可致事

追て取調之上可及沙汰_レ

一、町宿賄料之義是、迨一賄飯料米五合代ニ積来_リ外、雜費旁迎も右ニテ足_リ合兼_レ得共、是迨五組_ノ心付等も有

廿八日聞 江熊

之旁ニテ相済来_リ外義ニ付、是迨之通可仕哉、併組々多

廿九日聞 岩崎

小不同ニ御座_レ如何相心得可申哉

四月六日聞 橋津村へ名主共 寄合

同

同月六日 岩崎村ニテ聞我等披見小目も有り追て写し呉_レ

同

様申_レ

書面旅籠之義、時々相當直段ニ取極、組割取斗可申、

達し人 日足 刈宇田 和木

別段村宿心付之義は名主共申談相究可申出事

(以上)

一、是迨惣名主方へ内作加勢夫_与して村方_ノ罷越来_リ外名

後藤重巳(別府大学教授)
山中浩司(別府大学教務課員)

主共は昨日御沙汰ニ相成_レ間、此段宜奉_レ伺_レ

同

書面各方は名主共_与違

上方、御給米等も被下置_レ身柄ニ付、無賃遣ひ等不相

成事

名主・乙名・山留役共當役之人員相減し_レ迨ニ付、致兼帯

文之給米被下置_レ事